

福祉ボランティア活動☆

6月 小学生の福祉体験授業

思いやりの心を育てるため、福祉教育を小中学校で行なっています。

9月議会では「福祉教育の推進」と「障害者や認知症の理解」を提案発言しました。

7月 中学校での福祉体験授業

その他、地域や施設でのボランティア活動でも現場の声を聞いています♪



総会 6月22日(土) 19時～ 三道山町公民館 (参加者 約90名)

多くの方から市政への御意見を頂きました！

佐々木 紀 代議士 宮本 周司 参議院議員の奥様や地域やボランティア仲間や友人の多くの方々に
お越し頂き、ありがとうございました☆



「子育て中の方に配慮した公共施設を！」
6月の議会で提案し作られた
庁舎内の「子どものキッズスペース」
小さな事ですが、これからも頑張ります！

市民の声を市政に届けましょう！

10月20日は能美市議会議員選挙 投票日です。

能美市議会議員 田中さくじろう

〒923-1124 石川県能美市三道山町チ 16-2

TEL 0761-58-5037 FAX 0761-58-5209

Mail 3926@e-mail.jp HP http://3926jp.net/



平成25年 第3号

能美市議会議員

「絆さずな」～能美市政報告～



9月議会 一般質問

防災体制について 7月29日の豪雨災害について

福祉教育について いじめの問題に福祉教育を！ 障害者・認知症の理解を！

8月 市政報告会 (国会議員・県議会議員・市議会議員が登壇！)

佐々木 紀代議士 井出 敏朗県議 田中 策次郎市議 熱弁！

市政報告会 8月19日(月) 19時30分～ 三道山町公民館 (参加者 約70名)



●佐々木 紀 衆議院議員

現在進行中である国の施策を紹介「国・県・市の連携や人とのつながりを大切にし都市と地方の差を解消できるよう施策を展開し地域経済の活性化を図りたい！」と熱弁

●井出 敏朗 県議会議員

県政で取り組む防災事業を説明「市民の声を聞き安心できるまちづくりを推進する！」
「北陸新幹線開通での観光・経済戦略を推進し能美市の活性化に努力する！」と熱弁



●田中 策次郎 市議会議員

7月29日能美市の豪雨災害時の避難所運営の体験より、防災体制の見直し案を説明
「障害や認知症を市民全体が理解し、学校地域での人を思いやる福祉教育の推進と、市民の力を活かし、より多くの方が市政に関心を持てるよう努力する！」と熱弁

多くの皆様にお越し頂きありがとうございました！

9月4日 議会一般質問

1 防災体制について

●7月29日の豪雨による避難指示・避難勧告について

災害に対し行政の一番の役割りは市民の生命を守ることであり、次にライフラインや市民財産を守る事です。安全のため避難勧告を行ない、河川氾濫対応に多くの職員の動員を行なった事は的確な判断だと思います。大雨の中で土のう積みなど防災活動に尽力された市職員・消防署員・消防団員・自衛消防団員の方々に感謝申し上げます。しかし半面、**多くの課題や不備が浮き出てきたのも事実です。今後の防災対策に一刻も早く活かしていくことが求められます。**この豪雨災害の経緯報告を市長に求めます。

市長 防災士として避難所に駆けつけ助言など行なった田中議員にお礼を申し上げます。

今回の災害を教訓にした防災対策に早急に取り組む。

土砂災害によって困っている市民が、今もたくさんいらっしゃいます。市の補助で災害復旧を行なっておりますが、市民の安全を守るため市民視線に立った対応を望む。

市長 市と県とが連携をしながら災害対応に配慮していきたい。

●今回のような豪雨による災害想定はされていたのか？

全国的にも想定を上回る災害が増えており、今以上の対策を講じる事が必要と考える。

総務部長 初めての経験で、不備な部分があったのは事実、今後の防災対策を充実していく。

季節や曜日、時間が違うだけで条件が変わります。様々な想定をした対策が必要。

また ●避難所への保険師の常駐 ●避難地区への警察の見回り

●災害の正しい情報 ●避難者に対応できる市職員の常駐 ●行動の予定の説明

などの**避難者に安心を与える事が必要**であるが、どのような対応を考えているか？

総務部長 各被災した町会からの意見を集約し、各担当部局と連携し今後の対応にあたる。



H25年7月豪雨災害 避難所



避難所運営訓練の様子

●要援護者の対応について

災害時に被害を受けやすいのが高齢者・障害者・外国人・子ども等の要援護者とされる方々です。**避難時の要援護者の把握や救助、避難所での対応は出来ていたか？**

健康福祉部長 福祉見守り安心マップを活用し把握、避難対応を行なった。福祉避難所を開設、避難所にも保険師を派遣し個々の健康相談にあたった。

災害に依りて状況判断するのは難しく、**避難を町会長・民生児童委員・福祉推進委員だけに任せるのではなく確認や支援を行っていたか？** 今後は防災知識の共有も必要。

●避難所運営訓練と地域防災リーダー育成を！

今回は、ほぼひとつの町会での避難であり、町会長の適切な対応で秩序が守られたが多数の町会にまたがる避難の場合、避難所運営は難しいと考えます。このような事を想定し大規模な避難訓練や避難所運営・地域防災リーダー育成が必要ではないか？

自分で判断し災害から身を守る力を個々が持つことが必要である。

総務部長 大規模訓練を計画実行し、さらに地域防災力を高め防災リーダーの育成を進める。

2 福祉教育について

●子どもから高齢者のいじめ教育に福祉教育を！

能美市は県内の中でも道徳教育が進んでいる地域だと聞いています。その特徴を活かしいま問題となっている**子どものいじめから高齢者の虐待などに「人を思いやる学習」の福祉教育を取り入れてはどうか？**いじめを厳しく罰して根絶する方法も考えられますが思いやる心を伸ばす方法も学校教育だけではなく生涯学習においても大切だと考えます。いま核家族が増え、子ども達がお年寄りと過す機会が少なくなっています。生活の中で体力的に弱くなった方への接し方や、介助する大切さなどを分からないで育っていく子ども達や大人が増えています。その事で、**高齢者に対しての尊厳や弱者に対しての思いやりが希薄になっていると感じます。人が人を支え、地域の中でお互いを守り合わなければならない この時代に福祉教育を取り入れる事が必要ではないか**

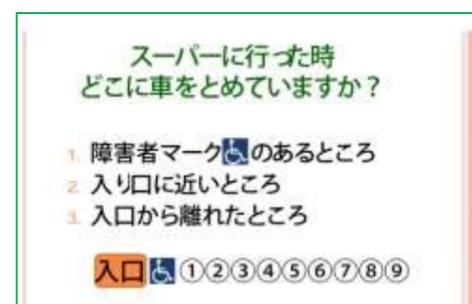
教育長 保育園・学校・地域で高齢者と接する機会を設けたり障害への理解を深める事業に取り組んでおり、田中議員にも世話を戴きありがとうございます。こうした普段からの福祉教育の推進の中で人を思いやる心を育み、その事がいじめの防止につながると考えております。今後も地域・学校で福祉教育の充実を図っていく。

●障害者や認知症に理解を！

いま能美市では脳トシなどの認知症予防や介護予防が市の事業によって盛んに行われています。今後も市民への啓発や事業の拡充を望んでおります。「**住みなれた地域の中で心豊かに住み続けたい**」という市民の思いをかなえるために、個人の予防に加え**地域の理解と協力が必要**です。認知症の方は何も分からない訳ではありません。楽しかったり悲しかったり様々な感情があります。今だ認知症と診断されただけで理解の無い方から「火事を出すのでは？」「施設に入れて」とか「家から出さな」などと言われると聞きます。能美市の中では介護者の会や市医師会や事業所などが連携を組むメモリーケアネットワークや各町の地域福祉委員会の立ち上げや民生児童委員さんなどが力強い活動を続けていますが、まだまだ障害を持つ方へや認知症の方・高齢者介護への理解が地域全体に広がっているとは感じられません。**誰もが介護される立場になる事を考えながら「高齢者介護」「認知症」「障害者」の方への理解と共に介護する方の苦勞を知った上で、誰もが安心して地域で暮らせる施策の必要があるのでは？**

健康福祉部長 介護や認知症理解の出前講座を行っており、学校でも障害者理解の授業を行なっている、新たな取り組みとして市内障害福祉事業所の授産製品のパンフレットを作成し市内での販売拡大を図り障害の理解と支援につなげたい。

●田中策次郎は小中学校でボランティアとして、このような福祉授業を行なっています。



「みんなはスーパーで、どこに車を停めてますか？」

児童「①番～」

「車椅子のマークには停めないの？」

児童「障害者の場所だから停めないよ～」

「みんなは世の中で10人いたら何番目に元気かな？」

「世の中には障害を持つ方が1割います。」

「高齢者の方が2割から3割います。」

「妊婦さんや小さな子どもを連れた人も買い物します」

「重たい物やたくさんの袋を持つのが大変な人がいます。みんなはどうしたら良いのかな？」

児童「元気な自分達は⑧番⑨番に車を停めなきゃならないね☆」

理解を深めるために頑張っている団体やボランティアの方々を市が支援し、

「誰もが生きていく喜びを感じられるような能美市」になるようお願い、質問を終わります。